

津屋せきの魚道をアユがのぼったよ

私たちトンボクラブが調べている多々良川の津屋せきにできた魚道で4月22日にアユが捕れました。魚道をのぼる魚を捕まえる特別の網にオイカワといっしょに21尾の長さ6~9cmのアユの子供が入り、この魚道が十分に力を発揮していることが証明され、また、多々良川でも天然のアユがいることもわかりました。

アユってどんな魚？

日本を代表する魚の一種で朝鮮半島からベトナムにかけての中国大陸沿岸にも生息しています。サケの仲間として背中中のひれの後ろにもう一つ骨のない小さなあぶらひれというものをもっています。寿命は1年で下の図のように川の中で大きいものでは30cm近くまで成長し、秋10~11月に卵を産んで死んでしまいます。川の中の流れがあるところ（瀬と言います）では『なわばり』をつくって他のアユをよせつけず、石の表面に付いた微小な藻類を食べます。一方、流れのない淵（ふち）では仲良く群れをつくって藻類を食べます。瀬の小石に産み付けられた卵はふ化すると夜間いっきに海（湖の場合もあります）に下り、浅い沿岸部で小さな動物性のプランクトンを食べ、4、5cmに成長します。それが4月頃で河口に集まり、昼の上げ潮に乗って川を上ります。今回捕れたものは丁度、この時期のものです。

（魚とりじい）

